

南京都病院ニュース

2016 夏号
No.43

National Hospital Organization Minami Kyoto Hospital News

建て替えが決定しました!

院長 宮野前 健



平成 24 年 2 月に一般病棟が集約されて新たに西病棟として運用を始めて 4 年が経過しました。次のステップとして外来部門・管理部門の新築を計画し、このたび国立病院機構本部から、建設に向けての「ゴー」サインがでました。

西病棟の南側の今は休棟している第一病棟を解体して 3 階建ての外来管理治療棟を新築します。延べ床面積が 6973 m² になり外来待合室のスペースを十分に取り、より快適で機能的な空間に生まれ変わる予定です。当院はご高齢の方や障害を持つ方々が多く受診されますので、患者さんの動線や安全面を十分考慮して設計しました。

1 階は外来診察と放射線部門、2 階はリハビリ部門や手術室、検査部門と薬剤部門が入り西病棟と渡り廊下で繋がります。3 階は医局・事務部門と研修・会議室となります。新棟の完成後は、現在の外来・管理棟を解体してゆったりした駐車場として整備し、外来へのアクセスを改善します。

当地在所は昔から「梅の里」として古歌にも詠まれている恵まれた環境にあります。その自然を活かした療養環境の整備も順次進めていく予定です。

必要な入札手続き等を実施して、早ければ今年の秋には休棟中の第一病棟の解体に入り、来年秋の竣工を目指します。工事中、病院をご利用の皆様には大変なご迷惑をおかけすることになりますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

具体的な工事計画が決まりましたら、改めてご案内いたします。



部門のご紹介 病院薬剤師のお仕事

薬剤部長 覚野 律



当院薬剤部では8名の薬剤師が様々な薬剤関連業務を行っています。
ここでは、病院薬剤師の主な業務について紹介します。
(治験については次の頁をご覧ください)

調剤業務

医師の発行した処方せんについて、処方内容を確認し、錠剤を用法ごとに1回分ずつまとめて分包したり、錠剤が服用できない方には錠剤をつぶしたり、患者さんの状態に応じた服用しやすい方法で薬剤を提供しています。また、お薬の取り間違い、はかり間違い等を防ぐため、コンピュータを利用したシステムを採用しています。



病棟での業務

入院時に患者さんが持参された薬を確認、医師・看護師に情報提供すると共に、入院中処方されるお薬の効果や副作用、飲み合わせ等をチェックし、医師の薬物治療の支援を行っています。また、入院患者さんが安心して治療が受けられるよう、ベッドサイドでお薬の効能・効果、使用方法、副作用などの説明を行い、お薬に関する様々な相談に応じています。

抗がん剤無菌調製業務

抗がん剤治療では、効果を最大限に発揮させることと副作用を最小限に抑えることが特に必要です。薬剤部では、医師より提出された処方について、院内で認められた適切な治療法であるか、患者さんの体重・体表面積・検査値等に基づき投与量・投与間隔等に相違ないか等をチェックし、無菌的操作によって正確に抗がん剤を調製し提供しています。



薬品管理業務

病院で使用される内服薬、注射薬、麻薬、消毒薬などが、患者さんに適正に使用頂けるよう、薬品購入、保管管理、使用期限の確認等を行っています。

医薬品情報管理業務

お薬が有効かつ安全に使用されるよう、医薬品に関する様々な情報を、収集、評価、整理し、必要な情報を迅速に発信しています。

チーム医療

病院では医師、看護師ほか様々な医療スタッフが連携し専門性を発揮し、患者さんによりよい治療・ケアを提供しています。薬剤師は、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、感染制御チームに積極的に参加しています。

このように、患者さんの内服薬・注射薬・外用薬について、患者さんが安心かつ安全に、薬物治療を受けて頂けるよう日々努めています。



治験管理室の紹介【臨床研究部と共に歩む】



北地副看護師長

試験管の中での実験や動物実験によって「薬の候補」として選ばれた物質が、実際に人にとって安全で、病気に対して有効であることを調べる臨床試験を「治験」といいます。現在治療に用いられている薬はすべて、治験でその有効性と安全性が証明され国の承認を受けたものです。近年、薬剤開発のための治療計画届け出件数は右肩上がりに増え続けており、平成26年度は601件に達しました。その結果、119の薬剤が新薬として承認されましたが、新有効成分を含有する薬剤は55剤のみでした。高齢化社会を迎えるとともに大きな社会問題となっているアルツハイマー病に至っては、これまでに実施された413件の治験のなかで新薬として承認を得ることができたのは4剤のみでした。どの疾患においても安全でより有効な治療薬の開発が常に待たれていますが、新薬が世に送り出されることがいかに困難であるかを理解していただけたと思います。

南京都病院は、独立行政法人国立病院機構の一員として質の高い専門的医療を地域の皆様に提供するとともに、医療の発展に寄与すべく治験の推進にも積極的に取り組んでいます。その中心的役割を果たすために、治験管理室は平成18年度に設立され、本年春には専属の事務職を迎え、CRC（臨床研究コーディネーター）2名、事務職1名体制となりました。CRCは患者さんへの治験概要の説明、スケジュール調整、治験責任医師・分担医師のサポート等、治験が円滑に進んでいくよう治験業務全体を管理しています。これまでも様々な治験実績を積み上げて参りましたが、本年度は慢性閉塞性肺疾患（呼吸器科）、アルツハイマー病とパーキンソン病（神経内科）の治験を実施しています。今日では治験に対して、



倫理性と安全性が強く求められるようになりました。このような流れのなかで、患者さんに治験に安心して参加していただける環境を整えるよう日々の業務に努めています。

前述の通り南京都病院では、現在、呼吸器科と神経内科疾患の治験を実施しています。これらの治験に関して詳細を知りたいと希望される場合は、お気軽に治験管理室までお問い合わせ下さい。



治験管理室のメンバー

❀ 重症心身障害児者 多機能型通所事業所しらうめ ❀

開所一年間が経過して



療育指導室 主任児童指導員 藤井鈴子

早いもので昨年4月に開所した「しらうめ」も1年を迎えました。ひとえに皆様のご支援・ご協力のおかげと感謝いたしております。この春からは支援学校の卒業生3名を新たに仲間に加え、現在3歳から48歳まで40名の方々にご利用いただいています。春にはお花見、夏にはお祭り、秋には運動会等を行う中で、昨年10月には「利用満足度アンケート」を実施いたしました。「自宅以外に、この子が楽しく過ごせる場所ができて本当にうれしい！」とのお声をいただき励みとなったり、「送迎をぜひともお願いしたい」等の課題に頭を悩ませたり、アンケートの回答を受けて、ますます真摯に取り組んでいかなければとスタッフ一同、日々奮闘しています。何かあれば「医療」がすぐそばにあるという強みを活かして、なおかつ彩り豊かな人生を送るためのお手伝いができるよう、今年度につきましても、更に安心して心地よく過ごしていただける場所となるよう努めてまいります！



地域医療に力を傾けておられるみなさまをご紹介します

住み慣れた家で、1人1人の想いに寄り添った看護を届けます

公益社団法人 京都府看護協会 南京都訪問看護ステーション 訪問看護

当事業所は、京都府看護協会立の訪問看護ステーションとして、平成17年12月に南京都病院の場所をお借りして開設致しました。今年11年目を迎える当訪問看護ステーションは、南京都病院の外來新築工事に伴い、平成28年6月にステーションの場所を京田辺市に移転致しました。



現在、看護師6名、事務員1名の計7名の職員で京田辺市・城陽市・井手町・宇治田原町の4つのエリアで活動しています。

0歳の小児から101歳の高齢の方まで幅広い年齢の方々の訪問看護を行っています。

24時間対応体制を確保し、利用者さんはもちろん、介護者さんも含めて安心して在宅療養が継続できるよう支援しています。南京都病院と連携しながら、神経難病や呼吸器疾患の方々の在宅支援や退院前の外泊支援の訪問看護も行っています。

また、最期をお家で過ごしたいと希望される方へ、最期まで自分らしく生きる事を支えていけるよう、サポートしています。これからも、居宅介護支援事業所・関係市町村・地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図り、地域の方々へ質の高い看護が届けられるよう鋭意努力して参ります。ご支援・ご指導をよろしくお願い致します。

- 京田辺市草内中垣内21-2
- TEL 0774-68-1810
- FAX 0774-68-1812
- 営業日・営業時間
月～金 午前8:45～午後5:30
※(24時間緊急対応可能)



米国ブラウン大学の交換留学生を迎えて



佐藤診療部長

坪井副院長

アマダさん

ニコルさん

加藤准教授

副院長 坪井 知正

京都大学医学教育推進センターの小西靖彦教授と加藤源太准教授の「京都大学－米国ブラウン大学の交換留学生に日本の医療の現場をじかに知ってもらいたい」との依頼を受けて、平成28年5月12～13日の2日間、アマダさんとニコルさんが南京都病院に実習に来られました。

ブラウン大学は米国東部のアイビーリーグにも属している伝統校です。日本の結核医療や保険制度に関心があったようです。とても勉強熱心で、当院の医師が不慣れな英語での講義など早めに切り上げようとすると、「もっと知りたい」とお願いされるので大変でした。

南京都病院の英語力の総力をあげて対応しましたので、お二人が帰られたあと多くの医師には心地よくも重い疲労感が残りました。でも、最後の日には、京都大学の先生も参加し黄桜カップカントリーでくつろいだ時を過ごしました。後日、お二人からとても丁寧なお礼状をいただき、少しでも国際親善になったのではないかと考えています。

呼吸器学会奨励賞を受賞しました

呼吸器内科 茆原 雄一

このたび平成27年度日本呼吸器学会奨励賞を受賞いたしました。日本呼吸器学会奨励賞は、これまでの研究業績を基に選考される賞で身に余る栄誉と考えております。

4月8日の第56回日本呼吸器学会学術講演会にて受賞講演をいたしました。「重症睡眠呼吸障害および呼吸不全患者の診断と治療法の確立」の題名で、

- ① 心血管障害などによる死亡率が高い重症睡眠時無呼吸症候群の早期診断・治療効果判定に尿中リポカリン型プロスタグランジンD合成酵素が有用なバイオマーカーであること
- ② 睡眠時無呼吸症候群の標準的治療法である持続的気道内陽圧（CPAP）のアドヒランス向上のため無作為化比較試験を行い、圧変化機能（Flex）を併用するとアドヒランスが改善すること
- ③ 生体肝移植術後呼吸器合併症に非侵襲的換気療法（NIV）を施行した際の再挿管予測因子の検討について講演を行いました。

今回の受賞にあたり推薦・ご尽力を頂いた先生方に厚く御礼を申し上げるとともに、この受賞を励みに今後もより一層日常臨床及び研究に励んでいく所存です。



『健康フェア』を開催しました

5月28日(土)に、地域の皆さまに自己の健康に関心を持ち、健康管理に役立てていただくことを目的に、アルプラザ城陽店で「健康フェア」を開催しました。当日は、看護、介護、栄養、もの忘れ等の各種健康相談や血圧、呼吸機能、骨密度、血管年齢、もの忘れチェック等の測定、相談を行いました。キッズコーナーでは、白衣でかわいいポーズをとったお子さん達の姿を撮影し、キーホルダーにしてプレゼントしました。当日は、朝10時の開始から、行列ができる程の大盛況となり、各コーナーで延べ1,400人を超えるご来場をいただきました。

当院からは30名以上のスタッフが参加しました。普段の業務とは異なる環境のなか、来場された方々と触れあうことができ、スタッフにとっても、笑顔のあふれる楽しい1日となりました。

今後とも、地域に開かれた病院として、地域の皆さまの健康管理に少しでもお役に立てられるよう、「健康フェア」を続けていければと考えており、次回は秋に開催を計画しています。



健康フェアスタッフ一同

交通のご案内

● 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
 ● JR学研都市線 京田辺から
 ● JR奈良線 山城青谷から 徒歩20分

*...各駅より送迎車あり

診療科のご案内

● 呼吸器科	● 神経内科	● 小児科
● 内科	● 外科	● 消化器科
● 呼吸器外科	● 循環器科	● 整形外科
● 皮膚科	● リハビリテーション科	● 放射線科
● 麻酔科	● 歯科	● 耳鼻いんこう科 (休診中)

(入院患者のみ対象) (入院患者のみ対象)

独立行政法人国立病院機構 南京都病院

(当院は在宅療養あんしん病院に登録しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください)

〒610-0113 城陽市中芦原 11 番地

TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765

URL <http://mkyoto-hosp.jp/>

地域医療
連携室

- **ダイヤルイン** 0774-52-0114 (内線 231)
- **直通 FAX** 0774-58-0270
- **E-mail** renkei@mkyoto.hosp.go.jp